

ここが知りたい! 米沢市立病院紹介 ①⑥

せいけいげか ☆ 整形外科編 ☆



今回は、整形外科長の小倉健医師に（写真：右）お話を聞いてみましょう。

Q 整形外科では、どんな疾患を治療するのですか？

A 骨・関節と首から腰までの脊椎および脊髄・神経など「運動器」の疾患を扱う診療科です。骨折・捻挫・打撲など外傷の多くは整形外科の分野ですが、頭部・顔面の外傷や内臓の外傷は扱いません。骨髄炎などの細菌感染症や関節リウマチなどの関節炎も扱います。代謝性疾患では骨粗鬆症があります。変性疾患には腰痛症・坐骨神経痛に代表される脊椎疾患、五十肩、膝や股関節など下肢の変形性関節症、外反母趾、扁平足などがあります。スポーツ障害も扱っています。

最も頻度が多い変形性膝関節症は60歳以降に多く、膝の凹脚（O脚）変形による痛みのために立ったり座ったりが困難になります。関節注射などが無効の場合は、人工関節置換術という手術を行っています。これは歯のインプラントのようなイメージで、痛んだ関節を削ってそこに金属をかぶせるものです。

関節リウマチは男性に比べて4倍ほど女性に多く、女性では概ね100人に1人が発症します。特に、育児や働き盛りの人に多く発症すると言われ、手や指の関節の腫れと痛みが初発症状であることが多いです。ここ10年で薬物治療が大きく進歩し、これまで症状を抑えることができなかった人でも普通の生活が送れる程度まで改善できるようになってきました。早期に発見して積極的な治療をすることで治療薬の効果が持続しやすいと言われていきますので、早めの受診をおすすめします。

骨粗鬆症は閉経後の女性に多く見られます。この治療薬もめざましく進歩しています。当科では、骨折の予防を目標として注射製剤も積極的に取り入れています。

◆問合せ／市立病院総務課経営企画室 ☎22-2450 ◆ホームページ／<http://yonezawa-city-hospital.jp/>